

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

共同受信用ブースター

電源内蔵形 屋内用

CS/BS-IF・CATVブースター

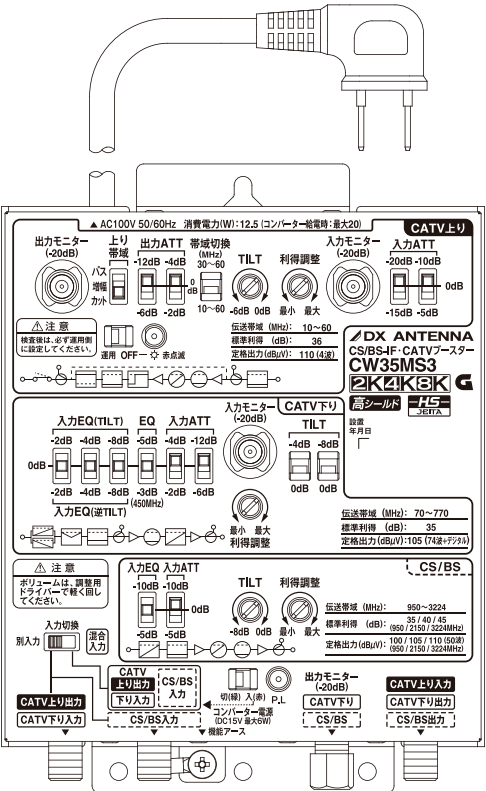
2K4K8K **高シールド** **H5**
JEITA

上り10～60MHz、下り70～770MHz、
CS/BS-IF950～3224MHz増幅用

CW35MS3

CATV35dB形

4K8K衛星放送に対応
すべての2K・4K・8K放送(3224MHz)に対応しています。



付属品

木ネジ(4.1×16mm)……3本

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		水ぬれ禁止		接触禁止		一般的な禁止事項		抜取り指示		指示を守る
--	----------	--	---------	--	-------	--	------	--	----------	--	-------	--	-------

警告

誤った取り扱いをすると、死亡や重傷を負うなど重大な結果に結びつく可能性があるもの

異常があるときは、すぐに使用をやめる
煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用しない
火災や感電の原因となります。すぐに電源コードをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店・カスタマーセンターにご相談ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。

電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む
ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。
火災の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを触らない
感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、製品には触れない
感電の原因となります。

同軸ケーブルを傷つけたりしない
本製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがあります。接続や接線の加工などで心線と編組を接触させたり、同軸ケーブルを傷つけたりしないようにしてください。
火災や感電の原因となります。

電源コードや同軸ケーブルを接続した状態で移動しない
接続した状態で移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ケースが破損した場合は、電源プラグや同軸ケーブルを抜く
本製品から電源プラグや同軸ケーブルを抜いて、販売店・カスタマーセンターにご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

製品にテーブルクロスやカーテンなどの燃えやすいものをかけたり、じゅうたんや布団のうえに置かない
熱がこもり、火災の原因となります。

製品を分解・改造しない
感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。

同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、電流を流す場合、途中には通電機器以外は絶対に挿入しない
通電機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。

注意

誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害の発生に結びつく可能性があるもの

テレビ受信工事には技術経験が必要です
アンテナ関連の設置や配線、接続、調整、移設、撤去については、販売店・工店にご相談ください。



AMラジオから1.5m以上離して使用する
AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。



DX ANTENNA

使用上のご注意

- 長期間放置後にスイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。
- 出力モニターは、出力端子にケーブルが接続されていないと正確なレベルを出力しません。より正確なレベル測定を行う場合、出力端子を使用してください。
- CATV施設やヘッドエンドなどのある施設で使用してください。
- 放熱性に富むアルミ合金製シャーシを採用していますので、**筐体が熱を持ちますが異常ではありません。**
- 上り帯域を使用しない場合は、CATV上りの上り帯域切換スイッチをカット側にしてください。
- 上り帯域を調整後は必ず出力切換スイッチを「運用」側(LED消灯)にしてください。LEDが点滅していると、**上り帯域は使用できません。**
- 正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。
- 電源プラグはコンセントから抜き取りやすい場所に差し込んでください。
- 本製品に電源スイッチはありませんので、電源を切るときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

製品に関する
お困りごとを解決!

Dサポ!
DXアンテナ サポートポータル

スマートフォンで
各種設定方法が
わかる➡

ホームページでも初期設定や、各種端末の詳しい手順を確認できます。
QRコードからアクセスしてください。

[1003]

※本製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

保証書

(単位：mm)

(2111-09-01)

■保証期間
製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)に記載されている購入日より1年間、本製品を本規定に従い、無償修理をすることを保証いたします。※消耗品は除く

保証期間
1年間

■無償修理
保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店にお持ちいただくか、弊社修理センターに送付してください。
弊社修理センターへご送付いただく場合の送料はお客様のご負担となります。また、ご送付いただく際、適切な梱包の上、紛失防止のため受渡の確認できる手段(宅配や簡易書留など)をご利用ください。尚、弊社は運送中の製品の破損、紛失については一切の責任を負いかねます。

■適用の除外
次のような場合には保証期間中でも有償修理となります。
① ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障および損傷。
② お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
③ 火災、地震、噴火、洪水、津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争、暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害または、ねずみや昆虫、鳥などの動物の行為による損傷、指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
④ 塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑤ 用途以外(例えば車庫、船舶への搭載など)に使用された場合の故障及び損傷。
⑥ 製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)を提示、添付されない場合。
⑦ 保証書にお買い上げ年月日、お買い求めの販売店の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。

お 買 上 年 月 日	ご住所・ご店名
年 月 日	販売店
	電話 () -

カスタマーセンター
土・日・祝日もご利用ください!

0570-033-083
DXアンテナ株式会社
6196

※全国一律料金でご利用いただけます。
※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
※ナビダイヤルは各社音声通話定額サービスの対象外となっております。

■受付時間 9：30～17：00 (夏季・年末年始休暇は除く)
■一部のIP 電話で上記番号がご利用になれない場合：050-3818-9016

ホームページアドレス
<https://www.dxantenna.co.jp/>

(1908)

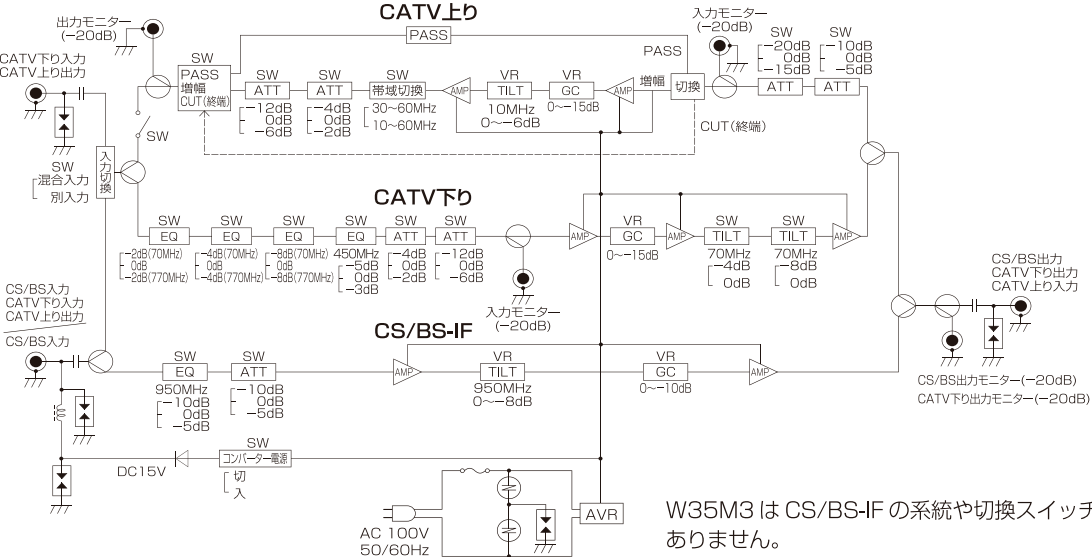
規格特性 CS/BS-IF・CATVブースター /CW35MS3、CATVブースター /W35M3

型番	CW35MS3	W35M3	CW35MS3	W35M3	CW35MS3
使用帯域	CATV上り		CATV下り		CS/BS-IF
周波数帯域 (MHz)	10～60		70～770		950～2150 950～3224
標準入力レベル (dBμV)	74		70		65
標準利得 (dB)	36(増幅時) 0～9(/ハ時)		35		35/40 35/45
定格出力レベル (dBμV)	110(4波)		105(74波+デジタル)(注1)		100/105(24波) 100/110(50波)
入力 A T T (dB)	0、-5/-10、-15/-20(注2)		0、-2/-4、-6/-12(注2)		0、-5/-10(注3)
入力 E Q (dB)	—		0、-2、-4、-8(70MHz)/ 0、-2、-4、-8(770MHz)(注2,4) 0、-3/-5(450MHz)(注3)	0、-5/-10(950MHz)(注3,5)	
利得調整範囲 (dB)	0～15以上連続可変		0～15以上連続可変		0～10以上連続可変
T I L T (dB)	0～6以上連続可変		0、-4、-8(注2)		0～8以上連続可変(注5)
出力 A T T (dB)	0、-2/-4、-6/-12(注2)		—		—
帯域内周波数特性 (dB)	±1.0以内(注6)		±2.0以内(注6)		任意の34.5MHzで±1.0以内、 全帯域で±2.5以内(注6)
雑音指数 (dB)	8以下(注6)		10以下(注6)		—
入出力インピーダンス (Ω)	75(F形)		75(F形)		—
V S W R	2.0以下(注6)		2.5以下(注6)		—
C S O + B e a t (dB)	-60以下		-60以下		—
C T B (dB)	-60以下		-60以下		—
C I N (dB)	—		—		-22以下(注6)
利得安定度 (dB)	±1.0以内		±1.5以内		±2.0以内
ハム変調 (dB)	-60以下		-60以下		—
入力モニター (dB)	-20		-20		—
出力モニター (dB)	-20		-20		—
上り調整用入力 (dB)	-20		—		—
耐衝撃度	JEC:±25kV(1.2/50μs)		JEC:±25kV(1.2/50μs)		—
直流供給電源	CW35MS3 DC15V 6W		CW35MS3 DC15V 6W		—
電源/消費電力	AC100V(50/60Hz) CW35MS3 12.5W(29VA)、直流供給電源 6.0W 送出時20W(42VA) W35M3 7.5W(18VA)		AC100V(50/60Hz) CW35MS3 12.5W(29VA)、直流供給電源 6.0W 送出時20W(42VA) W35M3 7.5W(18VA)		—
使用温度範囲 (℃)	-10～+40		-10～+40		—
漏洩電界強度 (dBμV/m)	34以下		34以下		40.2以下
外形寸法 (mm)	177(H)×136(W)×62.5(D)		177(H)×136(W)×62.5(D)		—
質量 (kg)	0.9		0.9		—

注1) デジタル35波・10dB運用 注2) 加算式 注3) 切換式 注4) 70MHzと770MHzは切換えます。(同時に設定することはできません) 注5) 3224MHz基準 注6) 利得最大時

仕様は改良により、予告なく変更させていただきます。ご了承ください。
HSマーク(イシールドマーク)は、一般社団法人 電子情報技術産業協会が審査登録され、衛星テレビジョン放送の中間周波数帯域において、一定以上の選り性能を有する機器に付与されるシンボルマークです。

ブロックダイアグラム 下記ブロック図はCW35MS3です。



W35M3はCS/BS-IFの系統や切換スイッチはありません。

CATV上り

帯域切換スイッチ
30MHz以下を使用しないことで
流合雑音を抑えることができます。

出力ATTスイッチ
0、-2/-4、-6/-12dB(加算式)
を選択できます。(⇒③参照)

上り帯域スイッチ
増幅側にすると標準利得36dBの
ブースターになります。カット側に
すると上り信号は出力されません。

CATV上り

出力モニター端子
出力レベルに対して20dB低い
レベルを出力します。

出力切換スイッチ
上り信号調整時に調整中の信号
が局側に流れないようにするス
イッチです。調整後は必ず「運用」
側に戻してください。

上り調整中点滅ランプ

CATV下り

入力EQ(TILT)スイッチ
入力波形が傾斜している場合に
TILT/逆TILTスイッチ(-2、-4、
-8dB)(加算式)で補正すること
ができます。

EQスイッチ
0、-3、-5dBを選択できます。
(⇒③参照)

入力ATTスイッチ
0、-2/-4、-6/-12dB(加算式)
を選択できます。(⇒③参照)

入力切換スイッチ
CS/BSが別入力か、混合入
力かを選択します。(⇒①参照)

接続端子

- 入力切換スイッチ: 別入力の場合※
{CS/BS入力端子}
- 入力切換スイッチ: 混合入力の場合※
{CATV上り出力端子
{CATV下り入力端子}{CS/BS入力端子}

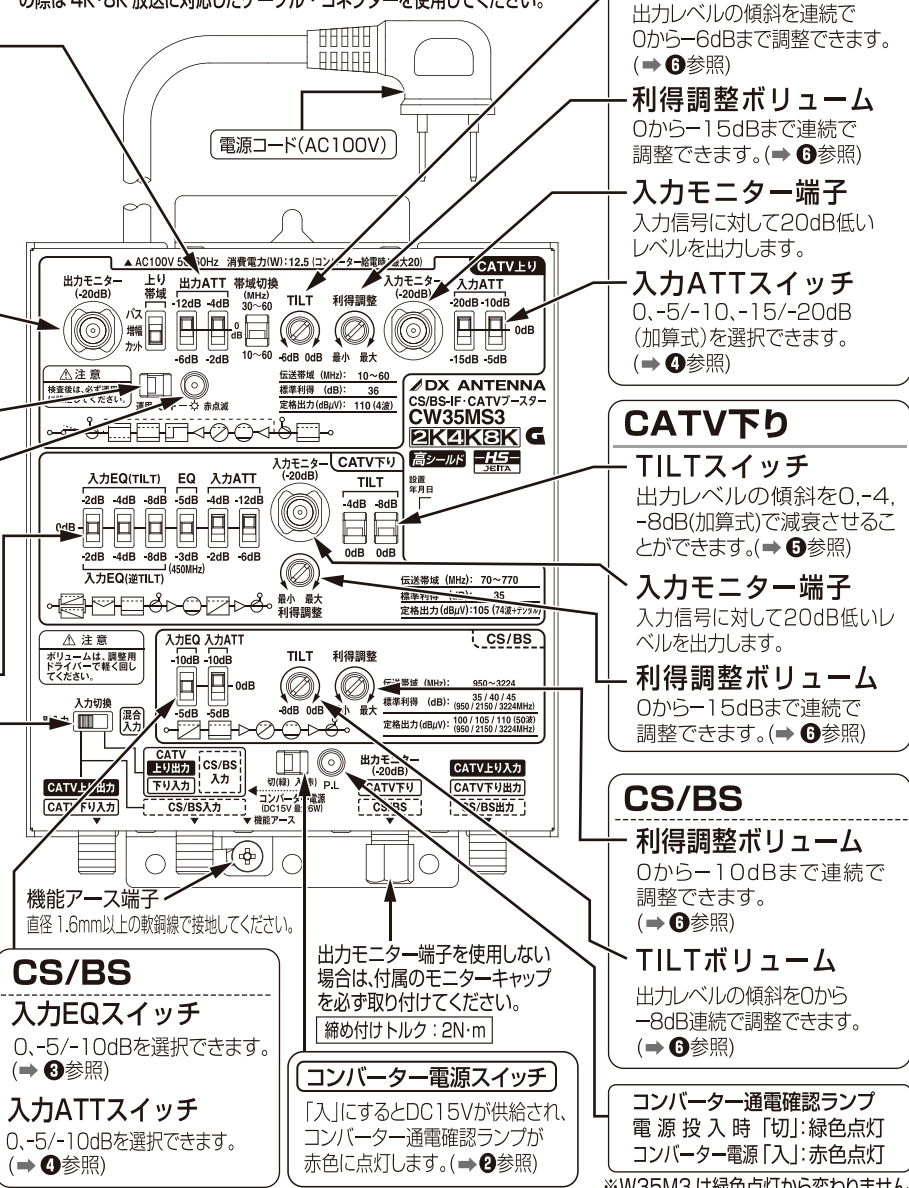
※コンバーター用電源出力端子として、
DC15Vを重畳して給電できます。

CATV下り出力モニター端子
出力端子として、-20dBが出力されます。

CATV上り出力端子 {CATV下り入力端子

CATV上り…加入者側からケーブルテレビ事業者に送られる出力信号のことです。
CATV下り…ケーブルテレビ事業者側から加入者に送られる入力信号のことです。

※各スイッチおよびボリュームは調整用ドライバー(小形)などで軽く操作してください。
※各スイッチは「カチッ」となるまで動かしてください。
※CW35MS3 BS-110度CS 4K・8K放送(3224MHz)のレベル確認
の際は4K・8K放送に対応したケーブル・コネクタを使用してください。



CS/BS
入力EQスイッチ
0、-5/-10dBを選択できます。
(⇒③参照)

入力ATTスイッチ
0、-5/-10dBを選択できます。
(⇒③参照)

出力モニター端子を使用しない
場合は、付属のモニターキャップ
を必ず取り付けください。
締め付けトルク: 2N・m

コンバーター電源スイッチ
「入」にするとDC15Vが供給され、
コンバーター通電確認ランプが
赤色に点灯します。(⇒②参照)

CATV上り

TILTボリューム
出力レベルの傾斜を連続で
0から-6dBまで調整できま
す。(⇒③参照)

利得調整ボリューム
0から-15dBまで連続で
調整できます。(⇒③参照)

入力モニター端子
入力信号に対して20dB低い
レベルを出力します。

入力ATTスイッチ
0、-5/-10、-15/-20dB
(加算式)を選択できます。
(⇒④参照)

CATV下り

TILTスイッチ
出力レベルの傾斜を0、-4、
-8dB(加算式)で減衰させるこ
とができます。(⇒③参照)

入力モニター端子
入力信号に対して20dB低いレ
ベルを出力します。

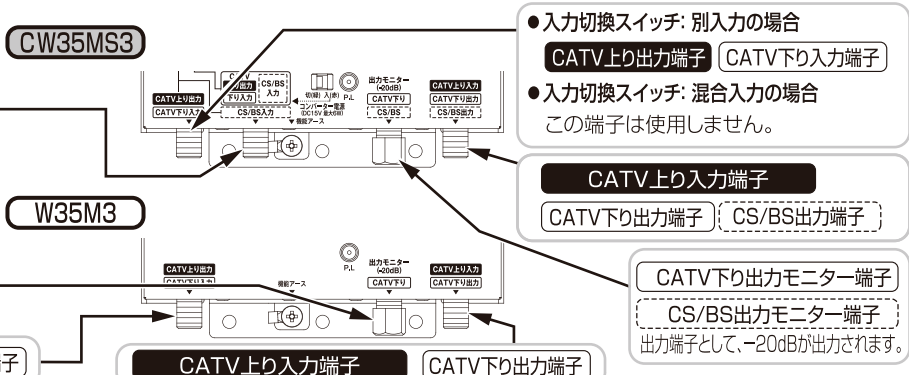
利得調整ボリューム
0から-15dBまで連続で
調整できます。(⇒③参照)

CS/BS

利得調整ボリューム
0から-10dBまで連続で
調整できます。
(⇒③参照)

TILTボリューム
出力レベルの傾斜を0から
-8dB連続で調整できます。
(⇒③参照)

コンバーター通電確認ランプ
電源投入時「切」: 緑色点灯
コンバーター電源「入」: 赤色点灯
※W35M3は緑色点灯から変わりません。



- 入力切換スイッチ: 別入力の場合
{CATV上り出力端子 {CATV下り入力端子}
- 入力切換スイッチ: 混合入力の場合
この端子は使用しません。

CATV上り入力端子
{CATV下り出力端子} {CS/BS出力端子}

CATV下り出力モニター端子
出力端子として、-20dBが出力されます。

CS/BS出力モニター端子
出力端子として、-20dBが出力されます。

お取扱いの前に 設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行ってください。

- 本製品は屋内専用です。屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
- 本製品を落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。前記に伴う故障については、製品保証の対象外になります。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- 本製品に接続する同軸ケーブルが7Cタイプの場合には、必ずコンタクトピン付き接合をご使用ください。心線の径が1.1mmを超えるケーブルを直接接続すると、変形や接触不良の原因となります。
- 接続する同軸ケーブルの接合取り付けは、その同軸ケーブル専用の接合を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接合の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください。(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)
- 上り帯域の調整は、必ず管轄ケーブルテレビ事業者の了解のもとで行ってください。
- すべての放送(2K・4K・8K)を見るためには、3224MHzまで対応した同軸ケーブルや4K・8K対応のBS-110度CSアンテナなどの機器が必要です。CW35MS3

取付方法

- 図のように板壁または放熱処理を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ2本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 本製品を1台収納する収容ボックスは、外形寸法700×700×140mm以上の大きさで上下に排気孔のあるものを使用してください。

〈ご注意〉

- ・天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。また、必ず入出力端子が下向きになるように本製品を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。
- ・同一の収納ボックス内にブースターを複数台設置する場合は、50mm以上間隔をあけて取り付けてください。

調整方法

〈調整の流れ〉



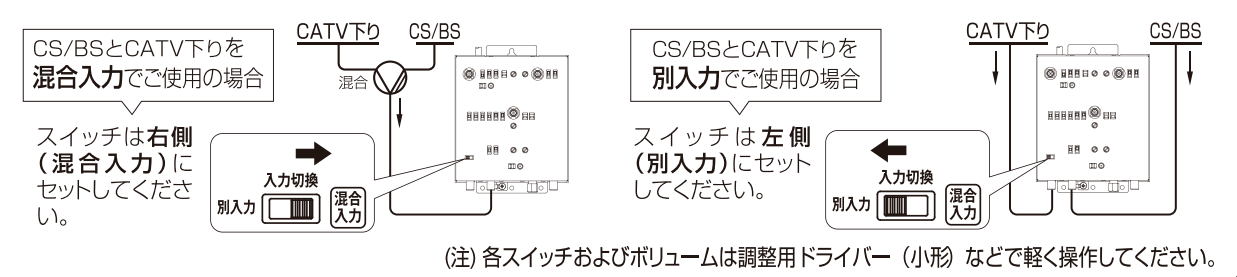
■CATV下り帯域の調整

- 手順1: 入力信号レベルを確認
・ヘッドエンド側からの同軸ケーブルを本製品に接続する前に、測定器(レベルチェッカーなど)を使って、本製品への入力レベル(PG)が図1または図2の範囲内であることを確認してください。
※範囲を超えるレベルを入力すると、故障の原因となる恐れがありますので必ず範囲内で使用してください。
入力レベルが図の範囲を超える場合は、外付けアッテネーター等で範囲内に調整してください。
※カスケード(多段)接続の場合や、後段(端末側)のレベルが、本製品の調整機能で調整しきれない場合、前段(ヘッドエンド側)のブースター等の利得調整ボリュームおよびTILTスイッチで調整してください。
- 手順2: 入力信号レベルの調整
1. 出力端子を75Ωで終端し、入力端子にヘッドエンド側からの同軸ケーブルを接続します。
2. 入力モニターレベル(PG)が50dBμVを超えないように下記要領で調整してください。
- 手順3: 出力信号レベルの調整
1. 出力レベル(PG)が105dBμVを超えないように利得調整ボリュームとTILTスイッチで調整してください。
なお、出力モニター端子は、出力端子に対して20dB低い値を示しますが、出力端子が開放時は正確な値を示しません。正確な値を測定するために、出力端子には端末側の同軸ケーブルを接続(または75Ωで終端)してください。
2. 接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください。

〈参考〉カスケード(多段)接続時の運用



① 入力切換スイッチの操作 CW35MS3



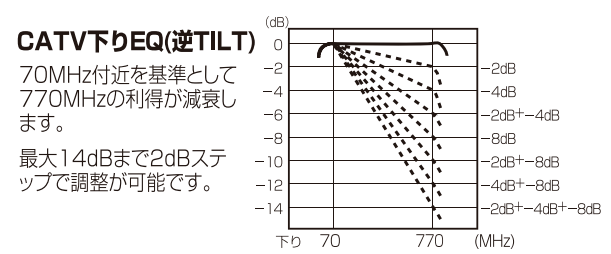
(注) 各スイッチおよびボリュームは調整用ドライバー(小形)などで軽く操作してください。

② CS/BSアンテナへの給電 CW35MS3

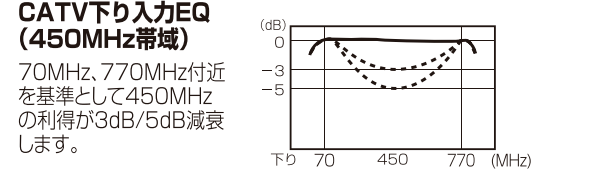
CS/BSコンバーター用電源(DC15V最大6W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。コンバーター通電確認ランプ(P.L)が赤色に点灯します。
(「切」にすると緑色に点灯します)

③ 入力EQスイッチの操作

CATV下りEQ(TILT)
770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。
最大14dBまで2dBステップで調整が可能です。

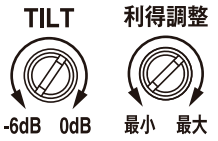


CATV下りEQ(逆TILT)
70MHz付近を基準として770MHzの利得が減衰します。
最大14dBまで2dBステップで調整が可能です。



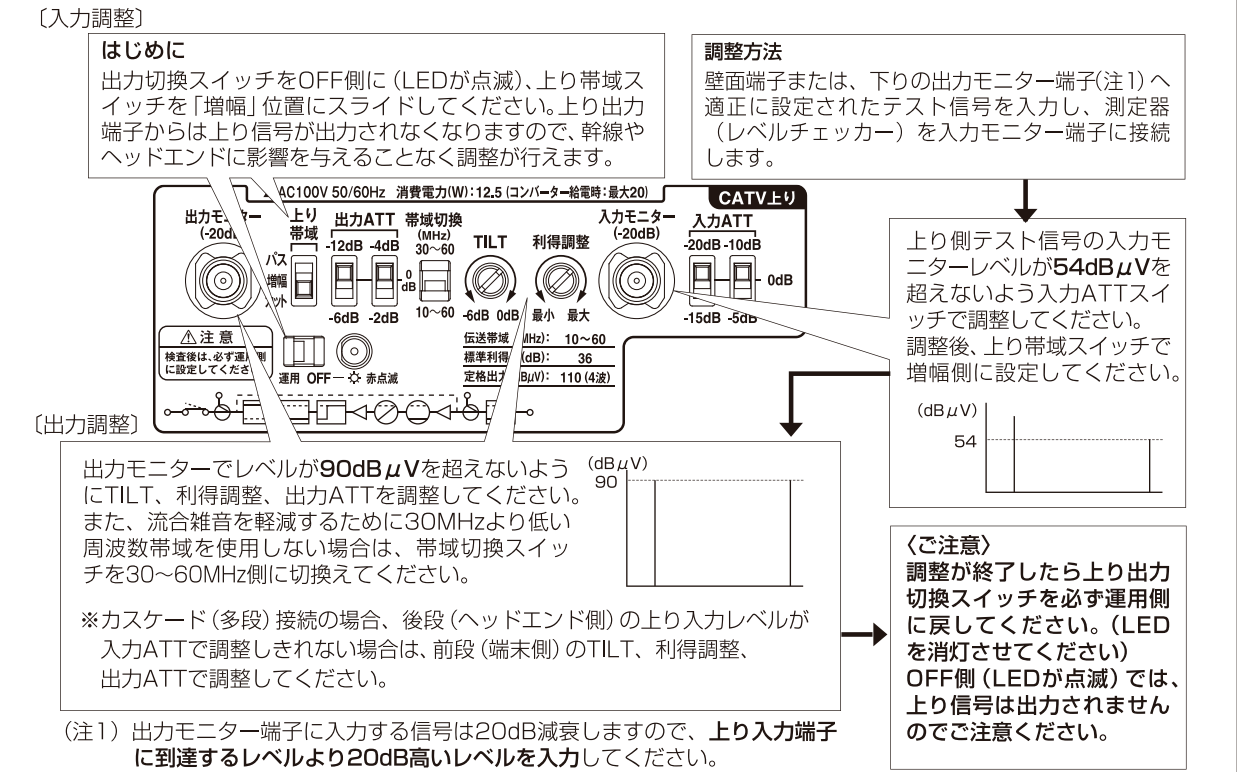
⑥ ボリュームの操作

後段に接続される機器が過入力にならないよう、TILTと利得調整ボリュームを調整してください。
TILTボリューム、利得調整ボリュームは「反時計回り」いっばいに回しきったときに利得が最小になります。
〈ご注意〉
・ボリュームは調整用ドライバー(小形)で軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。



■CATV上り帯域の調整

(事前確認) ケーブルテレビ事業者により調整方法が異なりますので、必ず管轄ケーブルテレビ事業者に確認・了解のもとで行ってください。
テスト信号発生器が必要になります。また、テスト信号のレベルは使用するシステムの伝送損失(分岐、分配、同軸ケーブル、壁面端子等)で異なります。テスト信号のレベルおよび周波数については加入エリア管轄ケーブルテレビ事業者に確認をお願いします。



■CS/BS-IF帯域の調整 CW35MS3

- ※BS-110度CS 4K・8K放送(3224MHz)のレベル確認の際は4K・8K放送に対応したケーブル、コネクタを使用してください。
- 手順1: 入力信号レベルを確認
CS/BSアンテナの同軸ケーブルを接続する前に、測定器(レベルチェッカーなど)を使用して、本製品の入力レベルを測定の上、入力レベルから入力ATTの数値(最大-10dB)を減算したレベルが65dBμVを超えないよう入力ATTスイッチ、外付けアッテネーター等で調整してください。
(このとき電源をコンバーターへ供給する場合は電流通過時のアッテネーターをご使用ください)
- 手順2: 信号の入力方法の選択
入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。(ケーブルを接続する前に選択してください)
2段目以降の増幅器の場合: 入力切換スイッチを混合入力側にし、下りCS/BS入力端子に接続してください。
- 手順3: ケーブルを接続
出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続(または75Ωで終端)してください。
- 手順4: 測定器の接続
測定器(レベルチェッカーなど)を出力モニター端子に接続してください。
なお、出力端子に同軸ケーブルが接続(または75Ωで終端)されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。
※より正確なレベル測定を行う場合、出力端子に測定器を接続してください。
※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レンジに注意してください。
- 手順5: 出力の調整(測定後はモニターキャップを必ず取り付けてください)
最も高い周波数のチャンネルの出力レベルが110dBμVを超えないように利得調整ボリュームを調整し、同様に低い周波数のチャンネルの出力レベルが100dBμVを超えないようにTILTボリューム(必要に応じて入力EQスイッチ)で調整してください。(接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください)
※出力端子に対して20dB低い値を示します。